

平成15年度一橋大学附属図書館企画展示

複式簿記がやってきた!

明治初期簿記導入史と商法講習所

複式簿記は、明治の文明開化によって、さまざまな文物とともに、西洋から日本に導入されたものです。一橋大学は、1875(明治8)年、森有礼による商法講習所設立に始まりますが、日本で最初の公立(1876(明治9)年から東京府立)商業教育機関として、複式簿記のわが国への導入とは不可分の関係にあります。

本学附属図書館では、商法講習所時代に使用された資料を保存し、また、西川孝治郎氏の寄贈になる明治期簿記書のコレクション「西川文庫」をはじめとした、明治期日本の複式簿記導入史を解き明かすための資料を、数多く所蔵しています。

今年度の一橋大学附属図書館企画展示では、明治初期に複式簿記がどのように日本に導入され、広まっていったのかを、西川文庫を中心に、また、それにまつわる本学の揺籃期である商法講習所史をご紹介します。

日時：平成15年10月27日(月)～
11月7日(金)
及び 11月10日(月)～14日(金)

場所：一橋大学附属図書館公開展示室
(時計台棟1階)

開場：9時～17時(入場16時30分まで)
但し 11月3日(祝)は9時～15時

【講演会】「一橋と簿記と西川文庫」

講師：安藤英義氏(一橋大学商学研究科教授)

日時：10月30日(木)15時～16時30分

場所：一橋大学附属図書館研修セミナールーム
(時計台棟1階)

展示・講演とも入場無料

同時公開電子展示：<http://www.lib.hit-u.ac.jp/service/tenji/k15/>



日本で最初の簿記書『帳合之法』と『商家必用』

ちょうあいのほう 福澤諭吉訳(慶應義塾出版局 1873(明治 6).6)

日本で最初に出版された西洋式簿記書。

アメリカで広く用いられた教科書 H.B.Bryant, H.D.Stratton 共著 “Bryant & Stratton's Common School Book-keeping”(1871)を翻訳したもの。

Book-keeping を「帳合」, Debit & Credit を「出入」など、簿記用語を初めて訳すことに苦心した、と後に福澤は述べている。従来の縦書きを



横書きへ改め、「千」「百」等の単位を使用しない十進記数法は後に続く簿記書に取り入れられた。

福澤諭吉(1835 ~ 1901)



しょうかひつよう なかば 『商家必用』加藤 斌 訳

(村上勘兵衛 1873(明治 6).10)

『帳合之法』に後れること 4 カ月、日本で二番目に出版された洋式簿記書。

William Inglis 著 “Book-keeping by single & double entry” を抄訳したもので、イギリス系簿記書の翻訳としては第一番目のもの。

固定資産減価償却、貸借対照表の例示で有名。



加藤斌(1844 ~ 1914)は、橋本左内に師事した。本書には、旧福井藩主松平慶永(春 獄)が、自筆の序文を寄せている。



松平慶永(1828 ~ 1890)

御雇外国人アラン・シャンドと『銀行簿記精法』



ぎんこうぼきせいほう
『銀行簿記精法』 A.A. Shand 著 海老原濟，
梅浦精一訳(大蔵省 1873(明治 6).12)

日本における最初の複式簿記書。

1872(明治 5)年 11 月施行の国立銀行条例に基づき初の国立銀行設立のために、シャンドが大蔵官員、第一国立銀行員に講述したものを翻訳したもの。

この書はわが国銀行簿記の原典として長く重用され、その主簿組織は「シャンド式簿記法」として、広く一般実業界にも普及した。



Alexander Allan Shand (1844 ~ 1930)

1872(明治 5)年 7 月に大蔵省に招かれ、10 月 1 日紙幣寮附属書記官として銀行簿記制度立案に着手。1873(明治 6)年『銀行簿記』脱稿。一時帰国後、1874(明治 7)年 10 月再来日し、紙幣寮外国書記官兼顧問長に任じられ銀行学局での指導、銀行検査官等を兼務した。

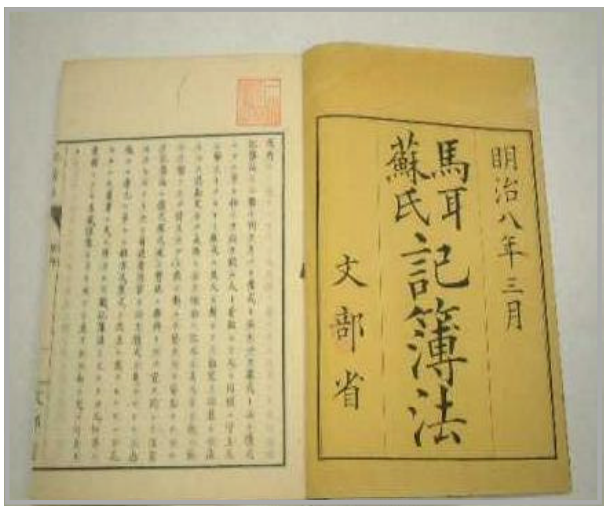
日本で最初の学校用簿記書『馬耳蘇氏記簿法』

1875(明治 8)年から、文部省が刊行した小中学校の記簿法の教科書。

当時、既に『帳合之法』や『商家必用』があったが、文部省は自ら小、中学校教科書を編集刊行する方針で、C.C. Marsh 著 “A course of practice in single-entry book-keeping” および “The science of double-entry book-keeping” の翻訳を小林^{のりひで}儀秀(小太郎)に命じた。その後、全国の出版者が翻刻し、様々な体裁のものが 1879(明治 12)年頃まで相次いで出版され、その後、実用書として会社等で広く長期にわたり利用された。

Christopher Columbus March (1806 ~ 1884)

アメリカの簿記教師兼会計士。訳書の底本は 50 年に渡って重版が続く良書であった。



『馬耳蘇氏記簿法』小林儀秀訳

- ㊤木版和本(文部省 1875(明治 8))
- ㊤銅版洋本(中村熊次郎 1877(明治 10))
- ㊤銅版和本(中村熊次郎 1878(明治 11))



商業教育のはじまり



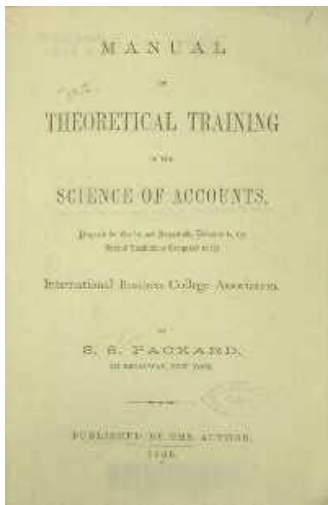
William Cogswell
Whitney
(1825 ~ 1882)

1875(明治 8)年、米国代理公使であった森有礼^{もりありのり}（後に初代文部大臣）は、アメリカで Bryant, Stratton & Whitney Business College (連鎖商業学校の一つ)を営んでいた W.C. ホイットニーを招き、商法講習所を設立した。

ホイットニーは、第一回の卒業生である高木貞作^{たかぎていさく}を助教に、アメリカの連鎖商業学校の教課内容を取り入れ、英語の教科書で、すべて英語で教育を行った。



森有礼
(1847 ~ 1889)



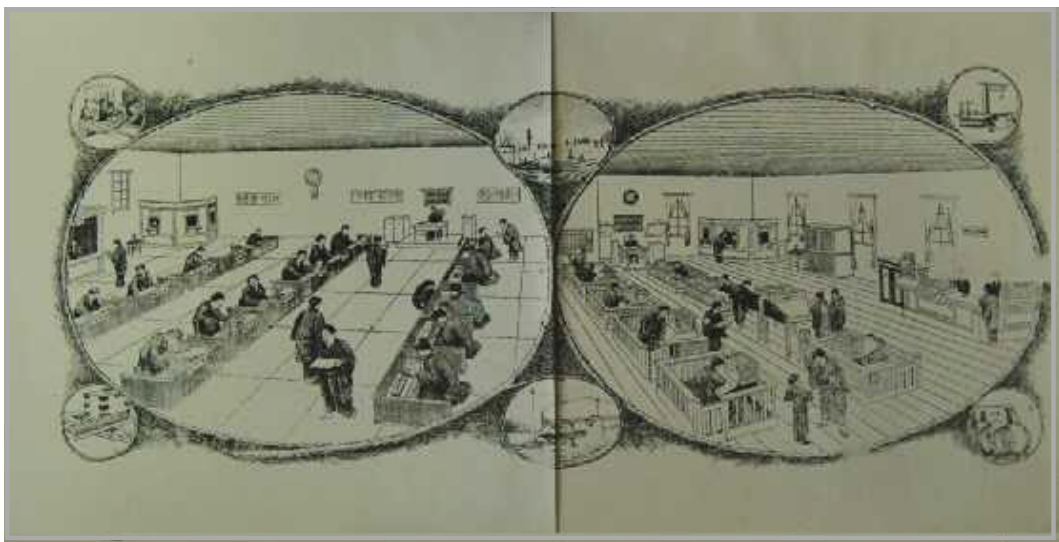
ホイットニーがアメリカから持ち込んだ簿記学の教科書

㊦ 『Manual of theoretical training in the science of account 』

S.S. Packards 著 (1868)

㊦ 『The logic of accounts 』

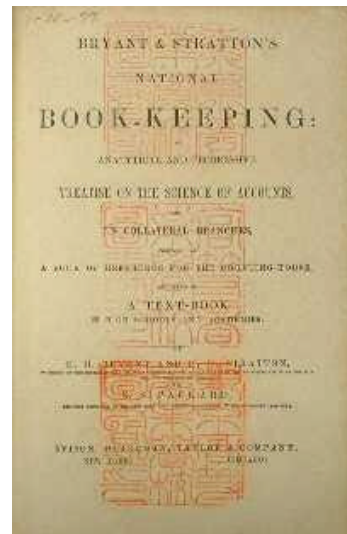
E.G. Folsom 著(1873)



商業模擬実践の図

ホイットニーは連鎖商業学校で行われていた「商業模擬実践」を取り入れた。1876(明治 9)年 8 月、新設後間もない講習所の 2 階を模様替えし、教室内に「バンク帳場」や郵便局、銀行仲買、物品仲買などを設けていた。

商法講習所の教科書

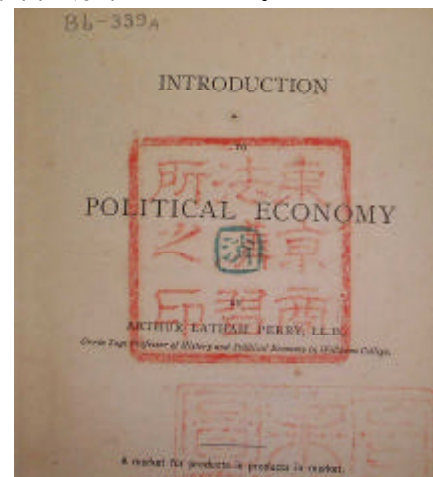


Bryant = Stratton = Packard 簿記三部作

- ㊦ 『Common school book-keeping』 (1861)(『帳合之法』の原書),
 - ㊧ 『Counting house book-keeping』 (1860), ㊨ 『National book-keeping』 (1863)
- 商法講習所の簿記学教科書として使われ, また当時の翻訳簿記書の原本ともなった。



『The manual of commerce』
(ブラウン物産誌)
S.H. Browne 著 1871



『Introduction to political economy』(ペーリー経済書)
Arthur Latham Perry 著 1880
東京商法講習所蔵書印部分



商法講習所の罫紙に
書かれた手稿

『簿記學』倉西松次郎著
1882(明治15)

『外交志略』
東京商法講習所
出版年不明



ホイットニーの門下生



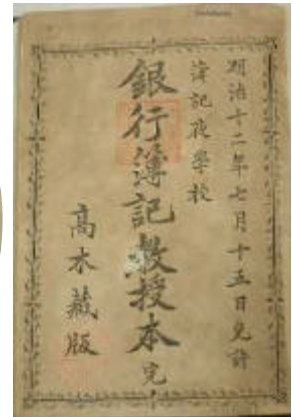
とみたてつのすけ
富田鐵之助 (1835 ~ 1916)
勝海舟の門下として、慶應3年勝の子息こらく小鹿に従ってアメリカに渡る。

1870(明治3)年11月, Bryant, Stratton & Whitney Business College の学生となり, ホイットニー来日に尽力した。

後, 日本銀行総裁となる。

『銀行小言』

富田鐵之助編 1885(明治18)



高木貞作 (1848 ~ 1933)

ニューアークでのホイットニーの教え子の一人。

帰国後, 商法講習所の最初期にホイットニーの助教を勤め, 後, 津田仙の銀座簿記夜学校でホイットニーと共に教えた(右は, その時の教科書)。

『銀行簿記教授本』高木貞作他合輯 1879(明治12)



なるせまさただ
成瀬正忠(隆蔵) (1856 ~ 1942)
商法講習所の第一回卒業生で, 助教となる。
東京高等商業学校教頭兼幹事の後, 1892(明治25)年大阪市立大阪商業学校長となった。

ごとうしんせんしょうばいおうらい
『龍頭新撰商賣往來』成瀬正忠著 1882(明治15)

もりしましゅうたろう
森島修太郎 (1848 ~ 1910)

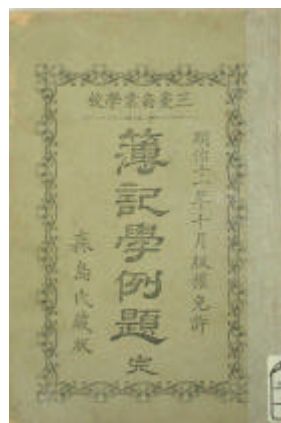
同じく講習所の第一回卒業生で, 卒業後助教となり, 簿記を担当した。
その後, 三菱商業学校の運営に参加し, 教科書としてフォルソムの簿記書をもとに『簿記学例題』を執筆した。



㊤ 『簿記学例題』森島修太郎著 1878(明治11)

㊦ 『簿記学階梯』もりしたいわくす森下岩楠, 森島修太郎合著
1878(明治11)

『帳合之法』の影響を受け, Bryant & Stratton の "Counting House Book-keeping" 等を参照して執筆した。



簿記史年表(明治初期まで)

年	商法講習所関係	簿記関係
1870(明3)	 <p>商法講習所木挽町校舎</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・V.E. プラガ, 大阪造幣寮に雇い入れられる。一般官民に複式簿記を講義。
1872(明5)		<ul style="list-style-type: none"> ・A.A. シャンド, 紙幣寮に附属書記官として雇い入れられ, 銀行簿記制度立案に着手。 ・我国会計年度改正(暦年制)。 ・実業学校令交付, 「簿記を教科目に編入」。 ・国立銀行条例公布, 第一国立銀行設立。
1873(明6)	<ul style="list-style-type: none"> ・商法講習所開設につき, 東京会議所から東京府知事大久保一翁宛に依頼。 	<ul style="list-style-type: none"> 『帳合之法』(単式) 福澤諭吉訳 『商家必用』加藤斌訳 『銀行簿記精法』海老原濟, 梅浦精一訳
1874(明7)	<ul style="list-style-type: none"> ・福沢諭吉, 森有礼と富田鉄之助の依頼により, 「商法講習所設立趣意書」を起草。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シャンド, 再来日し, 紙幣寮外国書記官兼顧問長に就任。
1875(明8)	<ul style="list-style-type: none"> ・W.C. ホイットニー, 家族を伴い来日。 ・銀座尾張町に商法講習所開設。 ・商法講習所の事務を東京会議所に委任。 ・高木貞作, 商法講習所掛となり, ホイットニーとともに教務を司る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一国立銀行, 原価償却費の計上。 ・プラガ, 大蔵本省に移り, 官庁簿記組織の立案及び官員への簿記教授を行う 『馬耳蘇氏記簿法』(単式) 小林儀秀訳
1876(明9)	<ul style="list-style-type: none"> ・木挽町に落成した校舎に移転。 ・東京会議所の事務を東京府庁に移し, 商法講習所は東京府の管轄となる。 ・矢野次郎, 商法講習所長に就任。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵省銀行学局を廃止。 『馬耳蘇氏複式記簿法』(複式) 小林儀秀訳
1877(明10)	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての卒業生を出す。 ・卒業生の森島修太郎, 助教となる。 ・高木貞作, 助教を辞任する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵省銀行学伝習所(銀行課所屬)を開設。 『複式啓蒙記簿楷梯』石井義正編 ; 白井肩校
1878(明11)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホイットニー, 商法講習所を解雇される。(6月1日) ・銀座2丁目に簿記夜学校開校(11月20日)。 ・ホイットニー教鞭をとる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算簿記条例。 ・岩崎弥太郎, 三菱商業学校開講 ・神戸商業講習所開設。(明治19年神戸商業学校と改称。) ・プラガ, 大蔵省を退職, 益田孝に招かれ簿記教師となる。(翌年辞任。)
1879(明12)	<ul style="list-style-type: none"> ・商法講習所予備科を設置。 ・ホイットニー, 長子の就学のため帰米。 	<ul style="list-style-type: none"> ・慶應義塾簿記講習所開設。 ・銀行学伝習所閉鎖, 簿記学伝習所を開設。
1881(明14)	<ul style="list-style-type: none"> ・東京府会, 商法講習所廃止を決定。 ・農商務省からの補助金により商法講習所を再興。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会計法(太政官達33号, 明治15年改正)制定。
1882(明15)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホイットニー, 再来日の途上, ロンドンで病死。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本銀行条例, 日本銀行設立。 ・大蔵省銀行局長加藤濟, 簿記学伝習所を廃し, 銀行局直屬の銀行事務講習所を開設
1883(明16)	<ul style="list-style-type: none"> ・矢野次郎, 商法講習所所長を退く。 	<ul style="list-style-type: none"> 『商事慣例類集』商法編纂局編
1884(明17)	<ul style="list-style-type: none"> ・商法講習所は農商務省の直轄となり, 東京商業学校と改称される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵省証券条例。 ・会計年度を4月から3月に変更。 ・三菱商業学校が廃止される。
1885(明18)		<ul style="list-style-type: none"> ・歳入出予算条規(国家予算制度の確立)。
1886(明19)	<ul style="list-style-type: none"> ・大蔵省, 銀行事務講習所を閉鎖し文部省に移管, 東京商業学校付属銀行専修科となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各庁計算簿記規程。

その他の展示物



『Summa de arithmetica, geometria, proportioni et proportionalita (算術, 幾何, 及び比例総覧)』

Luca Pacioli 著 1494 (複製版 雄松堂 1989(平成1))

原本は複式簿記法について論述した現存する最古の書物。一般には『スμμα』と略称されている。左は本文1葉目の飾り文字で、コンパスを持った僧形の著者パチオリ(パチョーリとも)が、自分の頭文字Lの中に立って講義をしている図である。

日本郵船株式会社元帳

日本を代表する海運会社の創業当初の帳簿。写真⑤は、第8期1892(明治25)年10月1日～1893(明治26)年9月30日の元帳。冊子はイギリス製のオーダーメイドで、高さ約63cm、厚さ約18cm、重さは実に33kgもある。



簿記棒

帳簿の赤い罫線を引くために使われていた棒。丸定規, ルーラーともいう。



一橋大学附属図書館所蔵西川文庫について

にしかわこうじろう
西川孝治郎(1896～1990)先生は、神戸高等商業学校(現在の神戸大学)を卒業後、三菱商事に入社、戦前戦後にわたって実業界で活躍される傍ら、明治期のわが国簿記書の収集家、研究者としても世界的に著名であり、後に日本大学商学部教授を務められました。

西川先生は、一橋大学に在籍されたことはありませんが、研究を通じて、商法講習所に並々ならぬ関心を持たれました。殊に最初の教師であるホイットニーの事跡調査等が縁となって、当館がコレクションの寄贈を受けることになったものです。

一橋大学附属図書館 平成15年10月27日発行
〒186-8602 東京都国立市中2丁目1番地
Tel: 042-580-8247 (情報サービス課企画係)

本パンフレットに掲載された文章、写真、図版等の著作権は、特記のあるものを除いて一橋大学附属図書館に属します。著作権者からの許諾を得ずに、著作権法の定める範囲を超えて、引用、複写、電子媒体化を行うことは、禁止されています。